

常盤新報

社開新常所行發
九五町南町平縣島福
次 隆 藤 伊 人行發
一 地 古 野 濱 名 小 縣 島 福

刊夕日九月五
一ヶ月 三十錢
一 部 二 錢
廣告料 一行五十錢
場所指定 十錢増
日曜祭日翌日休刊

小名濱中町青年團 波に櫻の團旗樹立式

團長の意氣と抱負は痛快! 他町内の幹部は何してゐる?

九日午後一時から小名濱
小學校講堂で中町青年團
旗樹立式が行はれ、参集者
三百余名に達する盛會だつ
た。

式前團長岡山重喜氏は語
るが中町青年團は十五才
以上二十五才迄の青年百五
十余名を以て組織され、不
肖團長として一同を統率
して居ります。今回大旗
五十兩を授けて波に櫻の
麗しい團旗を造り得た事
は誠に快心の至りで、之
はひとへに關係諸君の賜
と感謝する次第でありま

中之作港修築 或ひは繼續か

農林省から吉報

江名町中之作港は今月で
工事完成するが、数日前修
築事務所へ農林省の橋技師
から印刷した一通の書面が
届いた、それは漁港計画
設計の参考としたから附
載して或る一部では今年も

新鹿島村出現か?

うれしや村民の心意氣!

最近鹿島村では村民一体
となつて物質的並に精神
的更生を圖り、村長志賀直
哉氏を戴く村當局の意氣は
當るべからざるものあり、
次の様な村歌をつくつて着
々隆興の一路を歩んで居る
平小鐵道完成の曉には鐵道
通過地として大鹿島村の出
現するは疑ないところであ
らう。

これ以上工事を施す余
地がないといふ港には來
る筈がありませんから見
やうに依つては幾分賑が
あるかも知れません。
なほ同地の有力者で船主の
遠藤勝馬氏は
それは初耳ですが東北振
興會で繼續するやうに決
議したとかいふことは聞
きました、實現するなら
望外の幸です。
語り大平左衛門氏は
もう十萬圓もあれば立
派なものとなるのですか
ら是非やつてもらひたい
と語つた。

逃走? 料理店の酌婦

朝は早うから夜はおそ
くまで
せつせとかせつせも誰の
ため

内郷村大字内町宇金坂
月事酒井盛治方酌婦藤藤
ト(三)假名は前借二百六
十圓の身を持つて何れか逃
走したので組合一同大騒ぎ
となり捜索中の處、同日白
水不動澤方面午後十時頃
中捕はれた、同人は故意
の逃走でなく散歩に出た處
道に踏まつたと云つてゐる
が地内の人が同人は早くか
ら徘徊してゐたので其の不
心得をさして歸へさせる
處であつた。

火事の騒ぎ

驚いた火行人に啗付く
平町字仲町五十番地高山
寅二(三)は去る五日午前九
時頃藤井葉の火災にかけつ
けんものとした際全六軒
門十六番地石澤瀧義方飼犬
が突然飛來り全氏に啗み付
負傷した、目下共濟病院
にて加療中なり。

所得税委員會 向ふ一週間審議

石城郡所得税調査委員會
は七日午前十時から平野
署にて開き野崎滿藏氏が委
員長となり調査案を審議し
たが昨八日は原案調査の爲
に休會、本日からは一週間の豫
定で能率増進的に審議決定
する由。

賑がな 今日魚市場で

江名水難
救護會總會
江名町在住船主と船員か
ら成り立つてゐる水難救護
會では今日午後一時から
同町魚市場で總會を開いた
んせかけ出しの相撲取
りなぞ足もとにも寄りつ
けの堂々たる体格の持ち
主ばかり百四十人も集つ
たのだから素晴らしい壯
観であつた

年増女若い燕と 駆け落?

双葉郡浪江町大字新町五十
九番地喜春若石井キヨ(三)
は五月二日夫の弟子佐藤操
(三)をつれて當地方に逃走
し潜伏してゐる形跡がある

常磐新聞社 謹告

五月十日は本町鎮守大祭
に付き十一日日附新聞は認
て休刊仕り候

豆ニユース

テプスで亡くなつた江名
町北町石五郎君(三)
の葬儀は昨六日午後行は
れたが、消防手であつた
め同町第一、二部の幹
部が全部列席、なほ同君
は昨年結婚したばかり
であり人徳者として町内
から慕はれてゐた。

人事往來

江名漁業組合主事吉田健
悦氏並びに小松金重氏は
明日上京
江名町永崎にカジメ工場
を持つ蘭田男爵は昨八日
同町漁業組合に挨拶に
きた。

濱だより (八日分)

小名濱(魚市場調査)
魚名 漁獲高 單價制
スズキ 廿八貫 廿一
タナゴ 廿五貫 十二
タコ 二百貫 五十五
松川 八十貫 五十五
ノド 二百貫 六十八
千本 十一貫 六十八
鱒 七千箱 一ヶ 六十五
入港數
底曳船 十七
カンゴ網船 四
他に陸送物 三

天気豫報

五月九日
小名濱漁業所発表
今晩 南風晴一時曇
明日 南風晴一時曇
紀州潮岬八丈島、新
潟、能登、能登、能登、
新潟、能登、能登、能登、
新潟、能登、能登、能登、
(氣壓七百五十七耗一)

